

曲目解説

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番ト短調作品26

マックス・ブルッフはケルンで生まれベルリンで亡くなったドイツの作曲家で、歌手であった母から音楽教育を受け、あらゆるジャンルにわたって作品を書きましたが、生前は特に合唱音楽に高い評価を得ていました。しかし今日ではヴァイオリンやチェロを独奏とした協奏作品によって良く知られています。**ヴァイオリン協奏曲**は3曲残しましたが、**第1番**は1866年28歳の時に作曲され、同じ年の4月24日ブルッフ自身の指揮、ケーニッヒ・スロウの独奏で、ドイツ中西部の都市コブレンツで初演されました。曲は当時の大ヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムに献呈されています。初演当時から好評を博し、重厚でありながらロマンティックな叙情にあふれた名曲として、ブルッフの代表作というだけでなく、今日最も演奏頻度の高いヴァイオリン協奏曲の人気作の一つとなっています。

第1楽章 アレグロ・モデラート **第2楽章 アダージョ** **第3楽章 アレグロ・エネルジーコ**

ガーシュイン：ラブソディ・イン・ブルー

ジョージ・ガーシュインは1898年貧しいユダヤ系ロシア移民だった父のもと、ニューヨーク州ブルックリンで生まれました。12歳の時兄が習い始めたピアノに異常な興味を持ち、13歳からピアノと和声学ぶうちにポピュラー・ソングに強く惹かれ、楽譜出版社の店頭ピアニストとして働きながら歌曲の作曲を始めました。17歳の時に最初の曲が出版。19歳の時から歌手の伴奏を勤めるうちに歌の作曲依頼が多くなり、次第に売れっ子になって行きました。1924年1月にバンド・リーダー、ポール・ホワイトマンからピアノ・コンチェルトの依頼を受け、約2週間で書き上げたのが「**ラブソディ・イン・ブルー**」です。その年の2月12日、ニューヨークにて「新しい音楽の試み」と題されたコンサートで初演されました。初演にはラフマニノフ、ストラヴィンスキー、クライスラー、ストコフスキー、ハイフェッツといった巨匠たちが立ち会いました。ジャズやブルースで使われる「ブルー・ノート」と呼ばれる音階を用いてジャズの要素を全面的に引き出しています。その後管弦楽法を学びピアノ協奏曲へ調や「パリのアメリカ人」等の名曲を生み、シンフォニック・ジャズと呼ばれる新たな音楽を生み出しました。

カントループ：オーヴェルニュの歌ーバイレロ

ジョゼフ・カントループは1879年、フランスのアノネーで生まれ、由緒ある家庭で育ちました。幼い頃からピアノを学びましたが、銀行に務めた後、音楽家になる事を決意、パリに上京してのスコラ・カントルムに入学、ダンディに作曲を学びました。作品にはオペラ、管弦楽曲、室内楽曲などがありますが、1907年頃から故郷の民謡の収集・研究に励み、1924年に発表した管弦楽伴奏の歌曲集「オーベルニュの歌」が高い評価を受け、今日カントループの代表作となっています。1924年にコンセル・コロンの演奏会で初演、この年に第1、第2集が出版され、1955年に最後の第5集が出版、全27曲となりました。単なる民謡の編曲という枠を越えた、複雑で洗練された書法によって美しく生き生きと表現されています。村娘が川の向こう側にいる羊飼いの男に呼び掛けるために歌う第1集の第2曲「**バイレロ**」は特に良く知られた名曲です。

デュカス：交響詩“魔法使いの弟子”

ポール・デュカスは、1865年パリで生まれ、1935年パリで没したフランスの作曲家で、14歳から独学で音楽を始め、17歳でパリ音楽院に入学、デュボアとギローに学びました。1892年に書いた悲劇「ポリュウクト」序曲で最初の成功を収め、1896年に大作交響曲ハ長調、翌1897年32歳の時にゲーテのバラードに基づく交響的スケルツォと題する**交響詩「魔法使いの弟子」**を作曲しました。物語りは「なまけものの青年が不思議な魔法使いと出会い、その弟子となる。水汲みの雑用を命ぜられた弟子は師匠の魔法をまねてホウキに呪文をかけ、せつせと水汲みを始めます。しかし呪文を解く方法を知らなかったため、部屋の中は洪水となり溺れそうになったところへ師匠が帰り、呪文で水が止まります。弟子は師匠にこっぴどく叱られ、幕を閉じます。同年デュカス自身の指揮で初演。ユーモラスな標題と響き、色彩感のあるオーケストラは絶大な人気を博し、デュカスの名を国際的なものにしました。さらに1940年のディズニー映画「ファンタジア」で使用され、この曲は不動の名曲となりました。

ビゼー：交響曲第1番ハ長調

ジョルジュ・ビゼーは1838年パリで生まれ、1875年37歳の若さで亡くなったフランスの天才作曲家です。父は声楽教師、母はピアニストという恵まれた環境の家で育ち、幼少から音楽的才能を発揮しました。1848年10歳でパリ音楽院に入学、1857年カンタータ「クローヴスとクロティルド」でローマ大賞を受賞して以降、オペラ、劇音楽、管弦楽作品、ピアノ曲等の優れた作品を作曲して行きますが、歌劇「カルメン」と組曲「アルルの女」は特に有名です。**交響曲第1番ハ長調**は現存するビゼー唯一の交響曲で、パリ音楽院在学中の1855年17歳の時に書き上げられました。しかしこの交響曲が日の目をみたのはビゼーの死後60年が経った1935年の事でした。1935年2月26日大指揮者ワインガルトナーがスイス、バーゼルでの演奏会で初演、翌36年にはフランスでの初演をミュンヒュが指揮、以来世界に知れ渡り、ビゼーの名曲のひとつに数えられています。古典的な手法を受け継ぎながら、はつらつとした若々しい躍動感、青春のロマンを感じさせる叙情性など、瑞々しい感性に溢れた傑作です。

第1楽章 アレグロ・ヴィーヴォ **第2楽章 アダージョ**
第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ **第4楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ**